

北海道における大規模土砂災害時の対応及び環境改善に係る検討会

(第1回) 議事要旨

1. フローチャート、チェックリストは河川環境のみの観点から作成されているが、全体の生態系で考えるのであれば、もう少し視野を広げて作成すべき。
2. 河川環境シートと水辺の国勢調査で環境の特性は把握できるので、生物種の情報だけでは無く生息場所の情報の把握も重要であるためフローチャートにもその内容を記載できれば良いと考える。
3. 砂防における環境の場（セグメント）の整理は、今回の委員会では決定するのは困難であるとする。このため、少なくとも災害前後で環境がどのように変化したか情報を整理しておくべきである。倒木や土砂を取り除く災害復旧を行うことで、逆に環境に影響を与えるケースがあるので、復旧せずに残しておくべき区間については学識経験者との協議の上、決定するのが良い。
4. フローチャート、チェックリストの記載が砂防堰堤に寄った考え方になっているが、砂防堰堤だけでなく、同時に溪流保全工についても考えるべき。
5. 施設改良に至るまでの時間スケールが長いものとなるので、実務の運用面で考えるのであれば、モニタリングのタイミング等について、具体的に明記した方がより使いやすい。
6. 発災当初は継続して調査を続ける必要があると思うが、継続して長期的に調査することは困難と思うので、何年毎に調査を実施するか決めておくべき。
7. 生態系を評価する上で土砂や水の流れが変化することで、生物の生息がどのように変化していくか状況変化の情報が必要ではないか。
8. 土砂・水の影響する範囲、氾濫原を含めたモニタリングが必要であるとする。
9. モニタリングの手法として堆砂量を把握していくのが良いのではないか。
10. 改良工事後も引き続き、モニタリングを続けて、必要に応じてまた改良工事を行うようなフローチャートにすべき。
11. 移動可能土砂量が今後も継続して流出するのか、安定するのか判断するのは困難ではあるが、計画を見直す際には、植生が回復した箇所は移動可能土砂量から差し引く方法になると考える。